

# しいのき



「障子はり」「勾玉づくり」「紙によるオモチャづくり」の様子

## 手づくり文化を子どもたちに

名誉館長 三 隅 治 雄

ものを書くのにワープロ、パソコンに慣れて、いざ黒板に書こうとして、エッどんな字だっけ？とドギマギするわたしです。情けない話です。でも、見まわすと、田を耕すも植えるも、織るも、染めるも、打つも、こねるもすべて機械に頼って、人力を「手抜き」する時代になりました。これを機械文明の恩恵と喜ぶ一方で、資料館に残された民具や工芸品など「手づくり」の品々を見ると、その風味、模様、色調、輝き、温もりなど、心に沁みるものが多く、逆に現代生活の「手抜き」文化の味気なさを悟られます。

当館が、夏休みに子どもたちを集めて用具や遊戯品の手づくり教室を開いたのも、その反省からで、予想の倍も来館した子どもたちの顔の輝きから、文化の原点はこれだと感じたことでした。

# 文化財よもやま話

## オリンピックと民俗芸能

今年の夏はオリンピック観戦を楽しまれた方が多かったのではないのでしょうか。柔道や水泳、マラソンなど多くの種目で日本選手の活躍が見られました。これらの競技は勿論ですが、オリンピックの開会式や閉会式に行われるパフォーマンスを楽しみにしている方もおられると思います。

なかでも、平成10年（1998）の冬季長野オリンピックにおける閉会式のパフォーマンスは民俗学を勉強している担当者にとっては特に印象深いものでした。長野オリンピックの閉会式では、「岳の幟」や「御柱祭」の木遣り歌といった長野県に伝わる民俗芸能が披露されました。「岳の幟」は上田市別所温泉に伝わる雨乞いや悪病退散を祈る行事です。数十本の美しい大きな幟を人々が担いで練り歩きます。「御柱祭」は、諏訪大社上社下社の社殿の四隅に申年と寅年ごとに巨大なモミの木の柱を建てる行事です。山中から切り出した御柱を運ぶお練り行列が行われます。氏子が大勢乗ったまま高い崖から柱が落ちていく様子をテレビでご覧になった方も多いのではないのでしょうか。長野オリンピックでは、このときのために山から切り出した御柱が建てられ、木遣り歌が披露されました。

このように民俗芸能は地域のお祭り以外でもイベントや式典において奉納されることがあります。

今回、特集で取り上げました江古田の獅子舞もまた、様々な式典において演じられています。例えば、明治22年（1889）の大日本帝国憲法発布の際には祝賀のために靖国神社にて奉納されています。また、昭和28年（1953）のニクソン副大統領訪日の際には、歓迎レセプションにて獅子舞が演じられました。特集にも書きましたように、江戸時代には三代将軍家光の上覧を受けたという言い伝えもあります。このように、民俗芸能は地域の神仏に奉納される以外にも多様な機会に演じられてきました。ここであげました大日本帝国憲法発布の祝賀など、歴史的な瞬間に立ち会うことも少なくありません。民俗芸能からも歴史の一部分を垣間見ることができるのです。

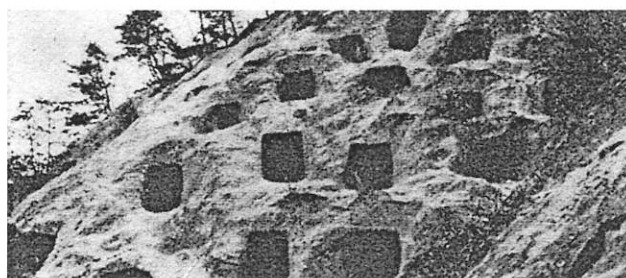
# 大地に眠る歴史

## 昔の人は遺跡をどう見たか(11)

吉見百穴よし みひやくあなを知っていますか。埼玉県吉見町に、鉢の巣のようにたくさんの横穴がうがたれている凝灰岩の丘陵斜面があります。それが吉見百穴よし みひやくあなです。これは一体何でしょう。

江戸時代の土地の人々は、隣接する松山城〔天正18年（1590）に前田利家・上杉景勝の大軍との激戦の末、落城した城。地元豪族上田氏の居城。〕の武器庫と理解していました。

その後、明治20年（1887）に東京帝国大学の坪井正五郎博士によって本格的な発掘調査が行われました。その結果、237ヶ所もの横穴が集中して造られていたことがわかりました。これらの横穴は通路（羨道）をくぐると突き当たりに部屋（玄室）を設けるものでした。そして、坪井博士はここを「穴居」、すなわち住居のための洞穴と解釈したのでした。ところが入り口と通路は高さ幅は1m程度で、奥の玄室も大人が立つのにはあまりにも小さなものでしたので、別な研究者から墓穴説が提出されて学会を賑わすことになりました。



吉見百穴の一部「日本考古学辞典」より

坪井博士は本誌46号で紹介しましたとおり、石器時代人「コロポックル説」（伝説にでてくる背の低い、知恵と力のある人）を唱えていましたので、これらの横穴は、まさに背の低い人が居住すべく造ったものとして、自説を補強するものと考えたのでした。現在では、全国的な類例から横穴は墓であり、吉見百穴よし みひやくあなは6世紀末から8世紀にかけての横穴墓群と考えられています。しかし、このような大規模な横穴墓群は全国的にも珍しく、実際に現地を見ますと圧倒されます。坪井博士がこれらを人の住んだ所と考えたのも、無理からぬような気がします。（つづく）

特集

# 收藏品から見た 江古田の獅子舞

10月の第1日曜日に江古田氷川神社の秋祭りにて江古田の獅子舞が行われます。みなさんご存知のように、江古田の獅子舞は古くから地域に伝えられている行事で、現在も盛んに行われています。本年度は2年に一度の本祭りです。多くの方々が江古田氷川神社へおでかけになることと思います。

江古田の獅子舞は、中野区の指定文化財となっています。そして、当館にも、この江古田の獅子舞に関する資料が寄贈されています。今回の特集では、特にここ数年の間に寄贈された資料を中心に、收藏品から江古田の獅子舞を見ていきたいと思ひます。これらの資料から江古田の獅子舞の歴史の深さを感じていただければ幸いです。

## ＝獅子舞の由来＝

高村止り村の獅子舞の由来は、  
 昔々ある村の若者、笛を  
 報と鹿の洞窟で獅子舞を  
 習い、同年九月廿八日海濱にて  
 入島、久念を山に羅集して、  
 野の山に帝とて、獅子舞を  
 村人沐浴とて、野を丁歩  
 り、年長比とて、寄附せしむ、昔  
 今も、人の少く、処に、お供  
 回と送り、村人の回せ、終る人

### 「獅子由来并大蔵院起立書」

江古田獅子舞の起源については様々な説がありますが、いずれにしてもかなり古くから行われてきたことは間違いのないようです。この文書は、資料館敷地寄贈者である山崎家の土蔵の中から見つかったものです。この文書には、慶安2年(1649)に宥圓という山伏が江古田村に逗留し、村の若者に笛などを教え、獅子舞を舞わせたと書かれています。

## ＝江戸時代の獅子舞＝



### 御用札

江古田3丁目にあります東福寺は、徳川幕府の頃、将軍お成りの際の御膳所(休息所)となっていました。正保の頃、三代将軍家光が鷹狩に來た際、獅子舞を上覧したという言い伝えもあります。また、雑司ヶ谷村(豊島区)の太行院にて、尾張候、紀州候、清水候の上覧を受けたと言われています。長持に獅子舞の道具を入れ、太行院まで担いでいきました。その長持には「御用札」をつけることが許されていました。

＝道具から見た獅子舞の歴史＝



▲江古田獅子舞行列絵巻

はなまんどろ  
花万燈

これは昭和40年（1965）位まで例大祭のお練り行列に使用されていたものです。江古田の獅子舞の行列を描いた当館所蔵の「江古田獅子舞行列絵巻」の中にもこの花万燈が描かれています。この絵巻が描かれた正確な年代は分かりませんが、江戸時代のものであると伝えられています。

また、この花万燈には「御嶽社」と書かれています。ご存知のように現在は氷川神社の境内にて獅子舞が舞われますが、それ以前は東福寺や御嶽神社でも獅子舞が舞われていました。御嶽神社が江古田氷川神社に合祀されたのは大正2年（1913）のことです。その後、現在の地で舞われるようになりました。この花万燈からもそのような歴史が窺われます。



ながえ  
轆 (長柄)

これは山車を引くためのものです。花山車の前につけられていました。本来は、牛馬に引かせるためのものですが、人間が引いていたこともあったようです。この轆を使用していたかどうかは分かりませんが、昭和35年(1960)ごろには牛が山車を引いていました。

## ＝描かれる獅子舞＝



## 東京都宝くじ

これは昭和62年(1987)発行の東京都宝くじです。「東京の行・祭事民俗芸能シリーズ」の中の一つとして、江古田の獅子舞が取り上げられています。

獅子舞は北海道から沖縄まで全国各地で行われている芸能です。本田安次氏によると、それらの獅子舞は二つの系統に分類できるそうです。一つは、一人が獅子頭を冠り前足となり、もう一人が後足となるもので二人立の獅子舞といいます。それに対し、一人の人が獅子頭を冠り、お腹に太鼓を付けて舞うのが一人立獅子舞です。江古田の獅子舞はこの図柄にあるように一人立の獅子舞です。そして、大獅子・中獅子・女獅子の三匹が舞う三匹獅子舞です。図柄にもきちんと三匹描かれています。

参考文献 堀野良之助1938『江古田の獅子舞』江古田聯合町会  
 本田安次1957「獅子舞考」『日本民俗学』五ノ一  
 牧野真一2004「獅子舞のあゆみ」『中野区民俗調査報告第4次報告 江古田・沼袋』中野区教育委員会

# 歴史民俗資料館の

# 有料刊行物のお知らせ

歴史民俗資料館の玄関に入って、すぐ左手に受け付けのような窓口があります。よく見ると、いろいろな本が並んでいるようです。展示ケースには、絵ハガキや浮世絵も並んでいます。そう、ここは、歴史民俗資料館の有料刊行物を展示、販売しているコーナーです。「中野の歴史や民俗についていろいろと知りたい!」という方はもちろん、来館した記念に何かお土産でもという方まで、いろいろな書籍等を取りそろえてありますので、ぜひお立ち寄り下さい。

## あなたにピッタリの有料刊行物を見つけよう

### Q1. 「中野の歴史について興味がある」

**大いにある**

Q. 中野の地名についてくわしく知りたい。

**YES**



中野の地名についての由来などがくわしく書いてあります。

**NO**

Q. 中野の民俗について知りたい。

**YES**



昔の中野ではお正月や祭りをどうすごしていたのかなどがくわしく書いてあります。巻末には年中行事表も記載されています。

**NO**



中野の歴史についてのいろいろな話が25話書いてあります。秋の夜長にぜひどうぞ。

**ちょっとだけある**

Q. 散歩が好き。

**YES**



これを持って散歩をすればあなたも中野の史跡通!!

**NO**

Q. たまに手紙を書く。

**YES**



新井薬師や哲学堂など中野の史跡の写真が入っている便箋です。

**NO**



歴史民俗資料館のおもな展示物の写真が入ったしおりです。来館の記念にぜひどうぞ。

# 古文書つづり

## 武骨も魅力

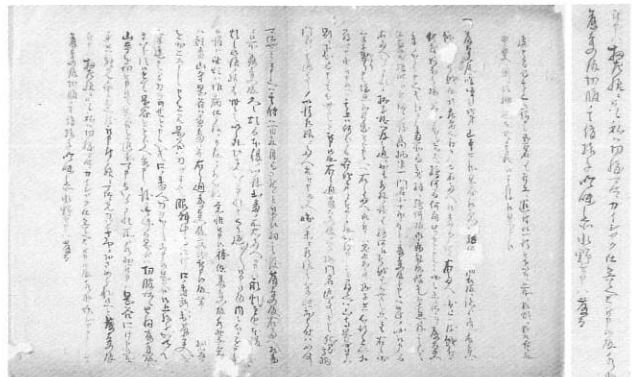
生者必滅・会者定離はうき世の習ひにて候（平家物語）。古今東西この事実から逃れられた人はいませんが、それにしても別れ方は色々です。

今回の文書、現状では一枚の紙に書かれたものようですが、中央で行間が不自然に空いていることから、冊子形態にする予定で書いていた文章が何らかの理由により中断したと考えられます。内容は越前松平家から駿河徳川家に移った人物へ同僚二人が悪口雑言を重ね、ついに耐えきれなくなって一人を斬り、逃げたもう一人を追いかけようとしたところを止められると、弁明らしい弁明もせずその場で切腹。逃げた者も詮議のうえ切腹…というもの。これが先祖の事跡の書上げなのですから何とも凄まじく殺伐としています。

この家の家系図などによれば寛永8(1631)年の出来事。武家社会では面目が非常に大切にされたため、こうした刃傷沙汰は少なくありません。特

に近世の早い段階では意地を立てるための騒動や死傷事件が頻発し、戦国時代の気風を払拭したい幕府を中心に取締と抑制が盛んに行われました。

同家の場合、跡継が幼少だったこともあってか家臣に取立てられず、残された妻子は突然の事態に苦勞することとなります。しかしながら喧嘩して切腹した次第を先祖の事跡として書残しているところに、こうした行動が公的には禁忌された一方で、後の人々が天晴な武士の心意気であると見なした意識が表れているのではないのでしょうか。



▲全体と▶末尾。「切腹」だの「カイシヤク(介錯)」だのという穏やかでない言葉が多出。それにしても命が軽い。

## 中野往来

### 竹本隼太の墓所

上高田1-2-12 龍興寺

今回は、早稲田通りに沿った“上高田の寺町”の龍興寺に墓所がある、明治期の陶工・竹本隼太(1848~1892)を紹介します。

竹本隼太は、嘉永元年(1848)に江戸深川の高橋大工町に生まれました。竹本家は幕府の旗本で、父要齋は、將軍家斉の時、外国奉行を務めた人物です。隼太は、文久2年(1862)15歳の時、將軍家茂に認められ、翌年講武所詰として登用されました。その後、小納戸役を経て、17歳で小姓に進み従五位美濃守となりました。慶応元年(1865)長州征討のため將軍に従って、大坂に滞在した際、樂焼に興味を持ちました。

慶応4年(1868)大政奉還後、職を離れた隼太は、父要齋と共に小石川の高田豊川町に移り住みました。そこで尾張園の古式窯を築き、含翠園と号し、焼物作りを始めました。

明治6年(1873)ウィーン万国博覧会に派遣されていた納富介次郎、河原忠次郎の話をもとに日

本で初めてフランス風の円窯を築きました。そして、明治10年(1877)第一回内国勸業博覧会に薩摩焼風の草模様の香炉を出品して「花紋賞碑」を受賞し、その名が広まりました。“蕎麦釉”“玳瑁釉”“辰砂釉”などを研究し、独自の作品を生み出しました。明治22年(1889)パリ万国博覧会には、その玳瑁釉の大花瓶を出品し、「名誉賞」を受賞し、世界的な名を得ることになりました。



# 事業報告

## 各種事業経過

2004年4月～9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「五月人形展」一館蔵品の五月人形や節句飾りを公開一	4/27～5/15
	「暮らしの道具百貨展」一さまざまな道具から昭和時代を考える一	7/20～8/31
	「春季所蔵名品展一江戸明治絵画の粋」一江戸明治期の軸物を展示一	4/6～6/30
	「夏季所蔵名品展一染付の美」一染付磁器「古伊万里」を展示一	7/6～9/26
文化財公開	山崎家茶室・書院公開	4/27～5/30
歴 史 講 座	「講義を聞いて古墳を巡ろう」講師：比田井克仁（当館主任学芸員）	5/29, 6/5
青少年講座	「楽しい工作・パズル」講師：藤本英以氏（木彫り人形作家）	8/21
夏休み事業	「障子張体験」講師：金子トヨ氏	7/22, 8/5
	「勾玉づくり」講師：館員・博物館実習生	7/21, 8/7
	「模型グライダー作り」講師：染谷 弘氏・飯塚喜和氏	8/17・18
	「クイズチャンピオン大会」一歴史クイズでチャンピオンに一	8/19
	「布によるオモチャ作り」「紙によるオモチャ作り」「しおり作り」 「火おこし体験」「石臼体験」「子ども映画会」「紙芝居」講師：館員	随 時
古文書講座	講師：大友一雄氏（国文学研究資料館教授）	9/4・11・18
	講師：笠原 綾氏（日本放送協会学園専任講師）	9/25, 10/2
埋蔵文化財 対 応	江原町一丁目22番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）	4/6
	江古田二丁目13番民有地試掘調査	5/8
	弥生町一丁目28番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）	5/13
	弥生町六丁目4番民有地試掘調査	5/13
	大和町二丁目30番民有地立会調査	6/2
	江古田三丁目14番区有地試掘調査	6/8～11
	江原町二丁目31番民有地立会調査	6/8
	南台一丁目4番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）	6/10
	江古田三丁目14番区有地試掘調査	6/15～18
	白鷺二丁目29番民有地試掘調査	6/16
	江原町一丁目23番民有地試掘調査	6/22～23
	江古田二丁目13番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業）	6/30
白鷺二丁目46番民有地試掘調査	8/25	
松が丘一丁目11番民有地立会調査	9/2	
そ の 他	小学校3・4・6学年総合学習見学：13校 博物館実習（7大学7名）	4月～9月 7/27～8/8

## 入館状況

2004年3月～8月（延152日間）（人）

一 般	団 体	学校教育	合 計
18,336	860	963	20,159

発行年月日 2004年10月1日

編集・発行  山崎記念  
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4  
☎ 03 (3319) 9221 FAX 03 (3319) 9119  
(印刷物登録番号 16中教生第871号)